

環境と本気で向き合う ごみ減量アドバイザー



小諸市ごみ減量アドバイザーの皆さん (H28 写真)

合言葉は、「もったいない」「ずくませ」
にほんいち
日本一！ごみの少ないまちへ



ごみ減量アドバイザー
ちかはる
宇野 親治さん

ごみ減量アドバイザーとしてこれまで3年間、ごみの削減のため、クリーンヒルこもろの稼働に伴うごみ分別方法の変更やスーパー店頭でのマイバッグ持参PR、市内小学生の課外活動、区や衛生自治会、各種団体などの出前講座など仲間と一緒に活動をしてまいりました。長野県はごみの排出量が日本一少ない県です。3R（リデュース・リユース・リサイクル）とごみの分別、残さず食べよう30-10運動などが成果につながっております。昔からの「もったいない」を合言葉に、長野県の方言である「ずくませ」をモットーに、近隣市町村に比べて増えつつある小諸市の燃やすごみを減らすためにもごみ分別のPRにごみ減量アドバイザーと衛生委員の皆様と協力して、日本一ごみの排出量の少ないまちをめざして活動してまいります。今後ともご協力をお願いいたします。

深 刻化するごみの問題と向き合うため、多くの皆さんに「ごみの減量と分別」に興味を持ってもらおうと「ごみ減量アドバイザー」を平成27年度から設置しました。市長から委嘱されたアドバイザー12人が衛生委員の方と協力して、地区や団体の集まりの場で出前講座や意見交換等を通じて、ごみの減量や再資源化に特化した活動を行っています。

度々実施する「クリーンヒルこもろ見学会」では、市内小学校の児童たちにクイズ形式でごみの分別について学んでいただいています。その他の啓発活動には、スーパーマーケットの店頭で「レジ袋削減・マイバッグ持参」の声掛けや各種イベントで講演するなど活発に取り組を行い、一つ一つの取組みは、すべてアドバイザーの皆さんが考案して実践しています。

ごみの問題は、全国的に課題とされているなかで、解決に至るには、日々の生活から意識して取り組む必要があります。一人ひとりができることは限りがありますが、皆さんが同じ意識を持つことが大切です。